

1. 気象概況 (中野市長丘地区気象ロボット観測データによる)

月間	旬別	上旬		中旬		下旬		月間		特記・コメント
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
2月	平均気温(°C)	-0.6	-2.0	0.7	-1.0	1.7	0.7	0.6	-0.8	月間平年比+1.4°C
2月	降水量(mm)	19.5	16.7	44.5	39.6	6.5	9.8	70.5	66.1	月間平年比107%
2月	日照量(h)	51.5	51.0	49.3	45.4	53.8	48.5	154.6	144.9	月間平年比107%

- 豪雪情報(2020-2021)：最大積雪量79cm(田上1/1) 累計降雪量421cm(田上12/15-2/28)
- 年度別氷点下-10°C以下遭遇(12-2月)：過去5年で最多は2017の21回。

年度	2015	2016	2017	2018	2019	2020
回数	10	18	21	14	4	16

2021 2月気象ポイント解説

気温：高温で経過。最高15.7°C(2/22) 最低-11.9°C(2/10) シーズンの氷点下10°C以下はここまで16回と過去3年で最多。

降水量：2月上中旬は平年をやや上回る(中旬平年比112%)。消雪は例年になく早い傾向。大雨26.5mm(2/15)

日照量：平年並みで経過。晴れの日が平年より多かった。

3か月予報：ラニーニャ現象終息模様。気温平年並み～やや高い。桜の開花は平年より大幅に早い予報。

2. 生産の経過・病虫害発生状況・今後の対策

- ◆ 柿2020まとめ：出荷量(昨対見込み)⇒市田(おひな)柿80% ころ柿50% 琥珀の華254% 乾燥時のロス、過乾燥等により出荷少なめ。琥珀→表年により量多い。

【生産特記2021】

- ① 生産基盤(推定)：ぶどう350ha・りんご150ha・もも83ha・和梨12ha・西洋梨6ha・桜桃7ha・柿6ha・プラム38ha
- ② ハウスプラム：ハウス1棟(貴陽) 2/15落花期。
- ③ ハウスサクランボ：7.2°C以下低温積算 1492.0h(1/8現在・昨年比△88.0h) 被覆予定22棟(昨年比△5) 被覆数15棟(2/28時点)
- ④ ハウスもも：被覆：12/28 加温開始：12/31 発芽1/25 開花2/4(平年より3日程早い) 収穫開始予想5月の連休頃～
- ⑤ りんご：花芽率60.5%(定点調査ほ)。豊作(着果過多)や昨秋の高温の影響でふじの花芽不良(貧弱・欠落等)。二次伸長芽も目立つ。2021は特にふじで隔年結果が心配されるため、剪定では花芽をできるだけ残し、生産量確保する。
- ⑥ 豪雪被害：年末～年始豪雪でりんご・もも老木樹等で枝折れ被害発生。
- ⑦ 凍害：早期の低温遭遇で若木中心に発生が心配される。初春(3月)以降の被害の心配されるため、防寒資材(ワラ他)外しはできるだけ遅らせる対策が必要。
- ⑧ 生育予想：豪雪・低温で経過していることから、初期生育(発芽・開花等)は平年並みと見込まれる。また、昨年多発したカメムシ等の越冬害虫は発生量多め・発生時期平年並みと予想。
開花予想：プラム4/2 もも4/8 ナシ4/18 りんご4/26 *開花始めは平年より7日程早い見込み。

【2021病虫害対策】

- ① 腐らん病：病斑部多々散見。1月からの早期発生日立つ。剪定時から注意する。被害部の削り取りや被害枝の除去は見つけ次第早急を実施する。
- ② せん孔細菌病：昨年と比べ、枝病斑は少ない。生育初期からの防除徹底で密度抑制が可能。
- ③ 晩腐病：巨峰中心。発芽前後からの薬剤散布徹底と病源除去徹底 ⇒ 早期密度低下
- ④ 黒とう病：シャインM中心。発芽前後・展葉2-3枚目の2回の薬剤散布徹底 ⇒ 早期密度低下
- ⑤ 輪紋病：病源であるイボ皮が各地で目立つ。削り取りと場合により梅雨期間のボルドー散布を計画する。
- ⑥ カスミカメムシ：ぶどう中心に5月連休後から忌避目的の予防散布実施。
- ⑦ カメムシ類：2020に続き越冬量は多いとの予報あり。5月から忌避目的の予防散布実施。
- ⑧ ハダニ類：昨年りんご(赤)ハダニ多発園では、発芽前のマシン油等散布徹底。
- ⑨ キンモンホソガ：越冬量は非常に多いとの予報あり。5月連休後から発生見込み。発生が目立つ場合は特別散布実施。
- ⑩ カイガラムシ類：もも・プラム園で散見中。